

全学学類・専門学群代表者会議 第三回本会議 議事内容報告

作成者：遠藤 舜也

【日時】 2016年5月18日（水）

【場所】 3A204

【出席】 全体75 定足38 出席51 遅刻5 早退0

【資料確認】

配付資料一覧

- ・ 16009『議事次第』
- ・ 16010『第二回本会議 議事内容報告』
- 《議題①に関する資料》
- ・ 16002『2016年度議長団選挙に関して』
- ・ 16003『学長決定「筑波大学の学生組織等について」』
- ・ 16004『副学長決定「筑波大学における学生の組織及びクラス連絡会等について」』
- 《議題②に関する資料》
- ・ 16011『学園祭に関する議題の承認を学内行事委員会に委任することに関して』
- 《議題③に関する資料》
- ・ 16012『全代会会長の設置について』

以上

※下線付き資料は第一回本会議にて配布済み

《訂正》

\*16009 議事次第

追加 「議題③ ・全代会会長の設置について……16012」

【会議内容】

今回の第二回本会議では以下の議題を扱った。

議題①：2016年度議長団選挙

議題②：2016年度学園祭関連議案審議について

議題③：全代会会長の設置について

以上

《議題①：2016年度議長団選挙》

議長・鈴見が説明を行った。

現在の出席人数は46名である。議題①：2016年度議長団選挙を実施するためには50名以上の出席が必要であるので、議題①は実施できない。よって、先に議題②、③の審議を

行い、その後に議題①を行う。

それでは、議事の進行を総務委員会の専門委員に委託する。

《議題②：2016年度学園祭関連議案審議について》

総務委員会専門委員・落合に進行が代わり、説明を行った。

議題②：2016年度学園祭関連議案審議について、担当の学内行事委員会にお願いします。

学内行事委員会委員長・福田が説明を行った。

資料 16011「学園祭に関する議題の承認を学内行事委員会に委任することに関して」を見てほしい。昨年度までは、全代会の会議で学園祭実行計画書について審議が行われていた。この議題については、学内行事委員会内部で審議が行われた後、全代会で会議を行うという形式をとっていた。すなわち、出来上がったものをさらに議論する形式であったため、全代会の会議で再度議論を行うのは効率が悪いという状況になっていた。そこで、学園祭に関する議題の承認を学内行事委員会に委任するという案を考えた。学生生活課、平成 28 年度学園祭実行委員会に問い合わせたところ、全代会内部で承認された場合、その形を採用しても良いという回答が得られた。そのため、資料にある 8 個の議題のうち、学園祭実行計画書（一次・二次）及び学園祭総括報告書に関しては、全代会の会議ではなく学内行事委員会内部でしっかりと審議し、承認することで、全代会の承認がなされたものとして扱うという形に変更するという提案をしたい。これに関して意見を収集したい。

この議題については意見聴取会という形式ではなく、意見がある人は名前や所属を言わずに発言しても良いということとする。意見ではなく、質問でも受け付ける。

〈質疑応答〉

質問：内容がない議論が行われていたということであるが、昨年は具体的にどのような議論が行われていたのか。

回答：誤字脱字についての指摘が主であり、内容に深く踏み込んだ議論が行われていたとは言えない。また、この誤字脱字は、全代会で審議するために実行計画書を早期に仕上げようとしたために修正されなかったものであると考えられる。今回の議題が承認されたとしても、時間をかけることで誤字脱字の修正は行えると考えている。

質問：学内行事委員会で承認が行われるなどされた場合は、全代会に報告はされるのか。

回答：勿論、学内行事委員会から報告という形で行う。

ここで、学内行事委員会委員長・福田が説明を行った。

先ほども述べたが、副学長決定には学園祭実行計画書や学園祭総括報告書について、全代会の承認が必要であるとされているが、この記述に関する学生生活課からの回答は、全代会でその「全代会の承認」を学内行事委員会に委託する旨が承認されたのであれば問題

ないというものであった。

質問：色々なことがここに書かれているが、これを承認するのは今回の提案に関する諸規則を改訂するということになるのか。

回答：諸規則は変えない。

質問：諸規則を変更しない場合は、「全大会の承認を得なければならない」という表記が残ることになると思うが良いのか。

回答：「全大会の承認」を学内行事委員会に委任することができるのであれば、問題はない。諸規則を変更する場合には意見聴取会、本会議を経て全大会の承認を得たのち、学生生活課の承認を得なければならないが、今回の場合では学則を変更せずとも構わないという回答を学生生活課から得られた。

質問：では、今回の議案は学則にある「全大会の承認を得なければならない」という文言における「全大会」にあたる組織を学内行事委員会とする、という認識で相違ないか。

回答：その通りである。

質問：今回の委任が決定された場合、以降毎年そのようになるということなのか。

回答：それに関しては、資料中にある「学園祭に関する議題」の一つにある「学園祭開催に関する要請」の中に、「来年度の学園祭に関する議題の承認の一部を学内行事委員会に委託する」ことを盛り込むことで、来年度以降も今回のような議案を継続してゆく心積もりである。

質問：毎年行うということか。

回答：その通りである。

質問：今理解できなかつたため確認するが、来年度以降学内行事委員会に承認を委託するためには毎年この旨の議案を承認する必要があるのか、それとも今回の議案を一度承認してしまえばそれで来年度以降は承認する必要はないのか。

回答：全大会は単年度組織であるため、毎年承認してゆく必要がある。

質問：学内行事委員会に承認を委託することで、実際に学園祭実行委員会にどれくらいの時間的猶予が生まれるのか。

回答：今年であれば、5月の15日あたりに実行計画書を受け取っており、6月の第一週あたりに承認が必要であるため、約一か月間確保することができる。

質問：もしもこの議案が否認された場合、学内行事委員会は実行計画書には関与しないのか。

回答：関与する。

質問：確認であるが、現在問題となっているのは、学内行事委員会が学園祭実行計画書を修正してから全大会に提出されるという構造で相違ないか。

回答：問題というよりは、無駄が多いということである。

質問：昨年までは、全代会で審議された後は学内行事委員会で再度審議されるようなことはあったのか。

回答：それはなかった。

ここで、学内行事委員会委員長・福田が説明を行った。

参考までに今回の議案を学園祭実行委員会に提案した際に提起された懸念を述べておく。承認された実行計画書に対する責任は、今までは全代会で審議されていたため全代会に帰結していたが、学内行事委員会に承認権限が委託された場合は責任が学内行事委員に帰結するのか、それともこれまで通り全代会に帰結するのかという疑問が学園祭実行委員会から上げられた。これについて学生生活課に問い合わせたところ、これまで通り全代会に責任は帰結するという回答が得られた。この点がおそらく今回の議案を承認するうえで問題となる点であると思われる。すなわち、承認する組織が学内行事委員会に移行したとしても、その責任の所在は依然として全代会に帰結したままであるという点である。

質問：学内行事委員会に所属していない全代会構成員が実行計画書について確認し、関与する機会は設けられるのか。

回答：例えば、学内行事委員会が審議を行うとしても、有志の全代会構成員が実行計画書についての議論に加わることは可能である。slackにて関連書類のやり取りを行うので、それを読んでもらい、それについて私に質問するなど行動を起こしてもらうことは可能である。

質問：学内行事委員会が責任を取らずに、なぜ全代会が責任を取らなくてはいけないのか。承認を委任してはいるが、内行が決めていくようなものだ。では、なぜ全代会が責任を取らなくてはいけないのか。

回答：ここで承認をしているからである。

質問：議論することは可能だが、議論をほぼしていない状態で委任していても責任を取らなくてはいけないのか。

回答：そうになってしまう。何か意見があれば述べてほしい。

質問：現状だと内行の slack にあげられている物を見て、その内容に関して全代会構成員の方から意見を述べるということはハードルが高いように感じる。slack の中にそのためのチャンネルを作成することはどうか。

回答：その通りにしたいと思う。

質問：学内行事委員会に承認権限を委任することは、面倒でないという点では良いと思うが、色々なところを見てきても1カ所に権限を委任していくと、その委員会が暴走してしまった時に止められないという事があるので、そういうチェック機能が今まで曲がりなりにも全代会に議案を上げるという形で行われてきていたが、それはどのように担保するのか。

回答：そもそも学内行事委員会が学園祭実行委員会の暴走を止めるためのチェック機能である。

質問：学内行事委員会が適当にやる可能性もあるのではないか。

意見：そのような事態を防ぐために、今学内行事委員会の slack に上がっている物をチェックして、学内行事委員会に所属していない人が意見を言うことが可能になるというシステムを作っているところである。それが担保してくれることになると思う。

回答：変えなくてはいけない点が出てくるので、今みたいに問題点を言ってくれると嬉しい。

質問：広報宣伝に関して学長に許可を求めるといものが入っていないが、どこに入るのか。

回答：去年の議案になかった。

意見：去年は一回出し忘れて、七月の一週目に審議している。

回答：全ての議事次第を確認したが書いてなかった。

意見：今までは一次実行計画書の時に出していた。

質問：全代会がほとんど審議等に関わらないのであれば、全代会が責任を取るのではなく、問題が起こったときに学内行事委員会に責任を取らせればいいのではないか。責任を取りたくないように聞こえる。

回答：学内行事委員会では責任を取れない。

質問：それはなぜか。

意見：そもそも学内行事委員会を含め、委員会というのは全代会の下部組織に当たるので、委員会の責任を全代会がとらないというのは、そもそもおかしい。学内行事委員会だけでなく、広報委員会や総務委員会の活動に関しても全代会で話し合っていて決めているわけではない。また、下部組織の責任を取るというのは社会においては常識である。

質問：しかし、委任されて自分たちで全部やりたいというのであれば、その部分の責任を負わせるということは可能ではないのか。無理であるのならば、ずるいと思う。

意見：責任の所在がおかしくなるのが嫌であるのならば、その議案を通さなければいい、という方向になる。

回答：審議を自分たちができず、責任を取れないということであれば、否認していただく方がいい。

意見：ただ、審議をしないから責任を取るのが嫌だというのであれば、今は slack に上がるものを見て嫌だという意見を表明する機会が設けられているので、全代会にて配布される資料と同じようにチェックすることはできる。そこを面倒くさがるかどうかだと思う。

意見：slack というのは意見交換の場であって、意見聴取の場ではない。意見交換ができたとしても、その上で表現する場というのは、会議という形式上議決でしか取れない

わけなのだから、全代会に集まった構成員が責任を負わされるというのは良くない。承認という手続きは全代会が執らなくてはいけないと思う。学内行事委員会が、全代会の委任を受けて承認を行ったら全代会の承認。それに対する意見が言いたかったら、slack にあげてやり取りを行ったらいいということ。だが、slack というのは意見交換の道具であるので、それを使って意思表示はできても、それが全代会全ての意見の集約にはなり得ない。

意見：学園祭の実行計画書と総括報告書に関しては委任しているが、学園祭開催に関する要請はこの会議の場で行う。もし嫌なら開催の要請の段階で拒否すればいい。

質問：やるか、やらないかを決定するのは依然として全代会で決めるのか。

回答：実行計画書が、それで良いかどうかについては学内行事委員会に委任される。その上で、書いてある学園祭開催に関する要請を、実行計画書を見たうえで、学長に開催を要請するのか決める。そこに関しては、全代会で会議が行われる。駄目であるということならば、そこでその表明を行うことが可能である。学内行事委員会が開催まで突っ走るのではなく、実行計画書の内容についての承認は学内行事委員会で行うが、それを基に開催するかどうかの承認は全代会で行うということになる。

意見：学園祭の開催を拒否した時に、実行計画書の内容に関してその時点では意見を言えるわけではない。その場合、学園祭を計画通り実行していいという意見か、もしくは全く開催しないという意見なのかの二通りしか出すことができない。このように改善を行ったら開催をしても良い、という意見を出すことはその時点では不可能である。

回答：それを slack で話してほしい。

意見：今は承認も否認も学内行事委員会に委任するという形だが、例えば全代会の中からその実行計画書に否定的な意見が出されたときには学内行事委員会が承認できないという制約をかければ、学内行事委員会の暴走で勝手に承認されることは防げるのではないだろうか。否認された場合は、全代会に上がってくるという形を同時に作っておけば、現状から簡略化されつつ、問題点は防げると考える。

意見：slack は今構成員全員が参加しているのか。それに関して全員参加していない状態であれば、問題である。全代会の場で話し合うのであれば、途中から参加しても聞けるが slack に全員参加していない場合、さらにインターネットの空間、ある種閉じられた空間で行うのは少し危険なイメージがある。できれば slack に全員参加している状態で話し合いが進められるべきではないか。

質問：現在、slack には全員入っているのか。

回答：全員であるという保証は現在無いが、招待メールは全員に送ってある。

意見：説明を行っているのに入っていないというのは、入っていない人の問題ではないか。

意見：入れないのであれば入り方を聞くなどすべき。全員が入っているという状態を作ることはできるのか。

意見：全代会構成員全員が slack に加入しているという状況は作れても、全員が必ず slack に投稿された内容を閲覧した、という状況を作ることはできない。

回答：学園祭に関する情報を slack によって「閲覧できる」という状況を我々が提供した時点で、その情報を「閲覧しない」というのは個人の問題になるのではないかと。

意見：それは暴論であると思う。例えば、授業中などに slack が動いていても閲覧はできない。

回答：閲覧する機会は一日だけではないと考える。

意見：それについては改善するための努力はいろいろとなされているとは思いますが、システム的に、それを閲覧、審議するための時間や機会があるかどうかについては個人によって異なるため、それは暴論であるように聞こえる。

意見：では、本会議の時点でも印刷した実行計画書を配ればよいのではないかと。

意見：それでは本会議に参加しない人が実行計画書を見ることができなくなってしまうのではないかと。

意見：本会議にも来ないで、slack も閲覧しないような人間の意見は、集約の仕様がなっていないと思う。というよりも、そもそも学内行事委員会に承認権限を委譲しなかったとしても、そのような人の意見を集約することはできないと思われるので、今回の議案を通すか通さないかという議論を行う上で議案を否認する理由にはなりえないと考える。

意見：会議で資料を印刷して配り、ある程度その議案を評価する期間を設けて、それに関する意見を回収すればそれで問題ないと思う。とりあえず、slack に資料を投稿し、会議の場で紙の資料を配布すれば、概ね全員が学園祭実行計画書に目を通すことができる。

回答：つまり、本会議で議案として扱うのではなく、資料として配付し、それに自分たちで目を通してもらうという形を執るということか。

意見：その通りである。資料配付してから一週間ほど時間を置けば、十分に目を通しておくことは可能であるはずである。

回答：それならば、印刷した実行計画書は必要ないのではないかと。

意見：一応 slack にあげるのと並行して印刷した資料も配付できる体制を整えるべきである。

意見：資料の配付だけだと審議の効率が悪いし、slack による伝達では閲覧できない可能性もあるので、両方行った方がよいと考える。

意見：それでも集められない意見については、もう策の取りようが無いと思われる。

回答：その上で見つけられた問題点については、学内行事委員会に意見してもらうという形を取ればよい、という考えか。

意見：その通りである。

意見：全代会という場合は、各構成員が学類・専門学群の代表者としての意見を述べている場であると考えているのだが、slack という場合は議事録の残らない非公式な場である

ように思える。全代会構成員の発言は学類・専門学群を代表しての発言である以上、正式な議事録の残る場で行われるべきであるとする。slack が議事録に残らない非公式な場である以上、その場で学類・専門学群の代表者としての全代会構成員の意見収集を行うのは不適切ではないかと考える。

質問：学内行事委員会の議論の議事録は取られているのか。

回答：取られている。

意見：学内行事委員会に所属していない構成員が slack で行った議論は、slack が正式な場ではない以上、学類・専門学群の代表者としての発言を行う場としては不適切ではないかという意見の表明である。

回答：例えば、クラ代会での意見を学内行事委員会に送ってもらうというのはどうか。現在クラ代会では、全代会で議論した内容が座長団によって報告されているはずである。その際に、全代会から各学類の座長に宛てて、slack よりも正式な手段であるメールを用いて学園祭実行計画書を送り、それについて各学類のクラ代会で審議してもらい、その議事録を学内行事委員会に送ってもらうという形式はどうか。

意見：そのような学類・専門学群を代表した意見が、議事録に残るか否かが問題であると考えている。

回答：集約された意見について、学内行事委員会内部で正式に話し合われるときに、集約された意見がどこから提出されたものか、それについてどのように取り扱ったかを明確にしながら会議を行い、その議事録を残し、開示する。

意見：slack を使った場合には、意見の蓄積によって無視されてしまう意見が生じてしまうのではないかとこの疑問が上げられる。このため、議事録というわかりやすい形で取りこぼしの無いものが必要であると考えられる。

ここで、総務委員会専門委員・落合が発言した。

当初の予定では本議題に用意されていた時間は 30 分であった。現在約 25 分が経過しているため、あと 5 分程度で終了できるように議論を行ってほしい。

質問：slack には DM のようなものはあるのか。

意見：存在する。しかし、実際にこれについての発言を行う場合、先ほど議論されたチャンネルを利用すると思われる。

回答：その通りである。

意見：ただし、その場合でも、あまりに意見数が増大した場合には意見を取りこぼす可能性がある。

回答：それを防ぐために、slack の内容を資料化するなどすれば良いと思う。

意見：そう思う。

意見：ちなみに、slack では自分の発言内容を改変したり、削除したりすることが可能であ



ると記憶しているが、それをできないようにすることは可能か。

意見：現在はあえてそのように設定はしていないが、可能である。また、そのように設定する場合には、全部のデータを定期的に、クローンという形でバックアップを全代会のサーバーに蓄積していくという方式を採用すべきだと思う。その場合には、slackの中で話し合われた内容は蓄積されていくため、紙の資料と同等の扱いを行っても良いと個人的には考えている。

意見：そのような設定を特定のチャンネルだけで行うことは可能か。

意見：可能である。

意見：話し合う専用のチャンネルをそのような形にして、正式に話し合える場とすればよいのではないか。

質問：この質疑応答の発言について議事録は取られているのか。

意見：発言者の名前の議事録は取られていないが、発言内容の議事録を取っている。

質問：このまま採決に突入するのか。

意見：今日、採決は行わない。

質問：この後、意見聴取会を挟むのか。

回答：今後、意見聴取会を経て本会議という順序で行われる。

質問：次の意見聴取会までに改訂版が作られるということか。

回答：今日出た意見をもとに作り直そうと考えている。

意見：結局、場所を slack に替えようという話になっているが、この案がなぜ出されたかについて考えると、効率の悪い議論が行われることが嫌だということであった。しかし、slack に場所を替えたところで話し合われる内容は誤字・脱字、言葉の使い方が違うということになったら何も意味が無いと思う。

回答：結局、学内行事委員会の審議を信用するかしないかということか。

意見：そういうことではない。全代会で話し合う内容がおかしくなっている。確かに、学内行事委員会で誤字・脱字を見なくてはならない。そのために学内行事委員会で見ておくのは分かる。学内行事委員会で出た疑問点、例えばこの団体は何をするのか、という話に関して全代会に全く上がっていない状態がおかしいのではないか。むしろ学内行事委員会に委任するという話ではなく、学内行事委員会の赤入れの体制を変更すべきではないかと思う。

質問：先ほどと被るかもしれないが、slack だと意見が流れてしまう。その意見を基に学内行事委員会で話し合うということだったが、その流れだと学内行事委員会が意図して委員会外の構成員からの意見を取捨選択できてしまう可能性がある。そこはそうするのか？

回答：その場合は、自分の出した意見について話し合われていないということで否認すればいい。

意見：結局 slack に議論が移行するという話になったが、それでも週に一度しか物理的に

会議を開くことができないという状況で、限られた時間を圧迫せずに済むようになる。学園祭実行委員会が実行計画書を完成させなくてはならない締め切りが延びるというメリットもある。議論の場を slack に移行することで、審議がいつでもできるようになる、学実委の締め切りが延びる、話し合う時間が増える、等のメリットは大きいと思うので、この案はありだとは思う。

意見：先ほどの学内行事委員会の赤入れの体制を変更することは良いと思うが、変えられたときにどのくらい全代会構成員の仕事量が増えるのかということがある。会議を開ける時間は限られているので、そのことも考えてほしい。

最後に学内行事委員会委員長・福田が発言した。

是非、この議案に関してクラス代表者会議で話してほしい。クラス代表者会議を開かない

という学類も開いて話し合してほしい。この議案は話し合うべきことであると思う。このような議案があるときは積極的に話し合い、出た意見を言ってほしい。

《議題③：全代会会長の設置について》

総務委員会専門委員・落合が説明を行った。

議題③：全代会会長の設置について、担当の議長団にお願いする。

議長・鈴見が説明を行った。

資料 16012「全代会会長の設置について」を見てほしい。この議題に関しては、先ほどの議題と同様に具体的に決まっているわけではなく、現状このような問題があるということをも全代会構成員に考えてほしいため、この議案を出した。

全代会の「議長」は、年度ごとの方針の決定や全代会全体の俯瞰など、第一回本会議でもあったように、「議長」としてより「会長」としての役割を担っている。「会長」の役割を持った「議長」を選出しているのが現状である。その上で、会議の進行を行っている。この問題点として、議長団が同時に座長団として投票権を所持しているにも関わらず、「議題は全て議長団を通してから審議している」「中立的立場でいどむべき会議の進行を行っている」ことが挙げられる。「中立的立場でいどむべき会議の進行」については、今は、総務委員会の専門委員に委託しているが、昨年までは、議長団で進行を行っていた。投票権を所持しているにも関わらず、既に審議を一回して、容認してから審議しているのはおかしいのではないか、と毎年言われている。そこで、「議長の役割」について、先日の委員長連絡会で話し合ったところ、早急に明確化したいという結論に至った。現在は先ほども述べたが、特別措置として総務委員会の専門委員に議題の審議のみ進行を委任している。

この現状に関して、全代会構成員の意見が聞きたい。

この議論の形式も先ほどの議論と同じ形式で行う。

〈質疑応答〉

質問：議長・鈴見が意見を出すために、総務委員会の専門委員に会議の進行のみを任せるとのことか。

回答：現在は、会議の進行ではなく、扱っている議題の進行のみを任せている。

質問：進行に関して、これから更に何かやろうとしていることはあるか。

回答：今は、とりあえず措置を取っただけである。方針を話し合った結果、方針が定まらなかったため、構成員ひとりひとりの意見を聞くために持ってきた。

質問：「会長」を置くとすると、「会長」と「議長」の二つに分けるのか。

回答：本当に「会長」を置かなければ、具体的なことを色々今から決めなくてはいけない。前に話し合われたときに、『「議長」は会議の議事進行のすべてを行う。ただ投票権はなく、毎年総務委員会の専門委員から選出する。「会長」は構成員として今まで通りの業務を行う』というようにしたらどうか、という意見があった。しかし、まだこれについて具体的な審議はしていない。

質問：「議長」と「会長」ではどちらが偉いのか、と言う問題が出てくる。ただ「議長」を総務委員会から選出するなら「会長」の方が偉くなると思うので、「会長」を選挙で選び、今までの「副議長」は「副会長」となるのか。

回答：その通りである。

質問：「会長」を置いた場合、「議題は全て議長団を通してから審議している」ことはどうなるのか。

回答：議長団という名前を変えなくてはならないが、「会長」、「副会長」の方に議題を通す形式になる。

意見：「会長」と「副会長」は、議案に対して他の構成員と等しい立場で意見を述べることになると思う。そこで、会議の前に議案に対して意見を述べる機会があることは不自然に思える。

回答：確かに、それも問題点である。この議案は毎年言われていることであるのに、今年も解決しないということはおかしいと思うので、解決したい。何か意見はないか。

意見：全大会の座長団は義務として必ず選出されるが、専門委員は義務ではないので、総務委員会の専門委員がいない年があるかもしれない、という問題もある。そのため、毎年、座長団以外から会議の進行役を用意するのは、難しいと思う。

意見：総務委員会の専門委員が一人だけの場合、その人が自動的に「議長」になってしまい、議事録をとる人がいなくなってしまうと思う。

質問：今まで総務委員会の専門委員が一人もいなかったときは、議事録についてはどうしていたのか。

意見：その年の昨年度までの担当者に引き継ぎやってもらうか、他の委員会の専門委員に

頼んでいた。

意見：総務委員会から「議長」を選出すると問題が出るのであれば、中立的な立場をとるために、全代会で「議長」を選出した時点で「議長」は座長団を抜け、新たな座長団の構成員を入れるのはどうか。

質問：監察役とは何なのか。

回答：資料 16004『副学長決定「筑波大学における学生の組織及びクラス連絡会等について」』に載っている。

質問：監察役が議事進行するのが、一番中立だと思うのだが、監察役に任せることはできないのか。

回答：監察役は全代会に関与しない人間であると定められているので、「議長」として選出することはできない。

質問：「議長」でなく、議事進行のみを委任するということもできないのか。

回答：毎年、前年度に議長団から議案が提出され、承認されれば、来年度の全代会の活動に関与しない人間として扱われることになっているので無理である。

質問：副学長決定に議事進行も駄目であるように書かれているのか。

回答：全代会に関与してしまっているのが、駄目である。

質問：監察役は全代会の構成員に含まれないのか。

回答：含まれない。

意見：総務委員会の専門委員は全代会の構成員であるから、議事進行できるが、監察役は全代会の構成員でないから、議事進行できない。

質問：議長団が議題を通してから審議することは、監察役は見ることはできるのか。

回答：できる。公平に議長団が審議しているか、ということについては大丈夫だと思うが、投票権を所持しているにも関わらず、既に審議を一回して、容認してから審議しているのはおかしいのではないかと、ということに関しては解決しない。

意見：監察役の役割が、実質選挙管理委員会になってしまっていると思う。また、監察役の人が活躍するのは、議長団選挙、議長に対し不信任案が出たとき、であるので、他の役割に使うのは難しいと思う。

ここで、総務委員会専門委員・落合がスクリーンに監察役についての資料を映した。

質問：「議長」を総務委員会から選出する必要性とは何なのか。

回答：必要性というより、総務委員会の仕事の中に会議の議事進行の補助が入っているからである。

質問：総務委員会ではない他の委員会の専門委員に「議長」を任せることは可能か。

回答：規則で専門委員を兼任してはいけないというものはないので、専門委員の兼任は可能である。

- 質問：そういうことではなく、総務委員会以外の委員会の専門委員に一つだけ入っている人が「議長」になることは可能なのかということである。
- 回答：可能である。総務委員会の専門委員に特別措置として議事進行を頼んだのは、先ほどあったように、総務委員会の仕事の中に会議の議事進行の補助が入っているからである。来年度以降、専門委員が現れなかった場合は、前年度の議長団から誰かが総務委員会の専門委員に選出されるような形式で、できると思う。
- 意見：それは确实じゃない。先ほどの「議長」を選出した時点で「議長」は座長団を抜け、新たな座長団の構成員を入れる、という意見も可能かどうかは学類の問題になる。また、そうすると「議長」を選出するときに公正な議事進行ができるか、という判断基準で議長を選出することになる。
- 意見：今の議長選挙は、「議長」という名の「会長」を選挙で決めている。「会長」を選出するとしたら、学則を変えて、「会長」がトップになると思う。今、「議長」の選出の仕方で悩んでいるが、「議長」を選挙で選ぶ必要性はないと思う。
- 意見：来年度の監察役を決めるときと同じときに、決めればよいと思う。
- 質問：わざわざ「会長」とする必要はあるのか。新しく「議事進行役」という役職を作ればよいと思う。
- 回答：学則で、「議長」の仕事の中に議事進行を行う、というのがあるので、学則を変える必要がある。
- 意見：名前の問題だから、本質的な部分はあまり関係ないと思うが、「議長」と「会長」の名前で混乱することがあると思う。対外的な関係で、今まで議長団として「議長」、「副議長」という体制でやっていたので、本当に「会長」に変える必要があるのであれば、変える価値はあると思うが、なるべく使える部分は残し、新しくする部分をよりえり抜いていく方針でやった方が、実現しやすくなると思う。
- 質問：学則では、「議長」が議事進行をすることになっているので、その仕事を誰かに委任するということか。
- 意見：年度ごとに行う必要性がある。全体の意見をとって、今年、誰に議事進行を委任するか決めるならば、大きな変更を加えずにできると思う。もし今年、このような形式で進めたいと全体で決めたならば、それでもいいと思う。
- 意見：中立的な立場で審議を行うという問題点は議事進行役を置くことで解決すると思うが、もう一つの問題点である議題は全て議長団を通すことについては、全大会の座長団以外には渡してはいけないものだと思う。座長団以外の意向によってフィルタリングされてしまったら、駄目だと思う。専門委員を三人立てて、三人がフィルターをするとしても、座長団がやらずに専門委員に委任するより座長団がやった方がいいと思う。三票で動くこともあるが、三票くらい別にいいように思う。
- 意見：議長団に意見を通してから審議を行うのが問題ならば、意見を全部持ってきて、審議すればよいと思う。

意見：議長団が会議で扱われる議題を見なくてはいけないと規則にあるのか。例えば、この前の模擬会議で比較文化学類の議案があったが、比較文化学類が議案を出したいと言った時点で議案を出す権利があるとするのならば、議長団は見なくてもいいと思う。

質問：昨年度は、議長団が出された議題で容認しなかったものはあったのか。

回答：無かったと思う。

意見：議長団の仕事の中に会議で扱われる議案を先に見ることが入っていないならば、そもそも議長団で先に見ないで、そのまま会議に通せばいいと思う。

意見：議長団に議案を通すのは、ほとんど議事進行上の都合があると思う。議長団を通して出す、出さないを決めるとき、議長団の意向によって最初の議案のまま通るか不安だと思う。議事進行の都合で、タイムテーブルを作る等のために見なくてはならないということは理解してほしい。

質問：議長団が必要なのはなぜか。全代会の代表としての役割を議長に与えるのならば、副議長はいらないのではないか。議案をどこに投げればいいのかと言うことが問題になっていると思うが、議事進行役に議案を投げればよいと思う。

回答：変更は特に加えず、タイムテーブルを作るために見る。

意見：総務委員会に忠実に印刷してもらい、議事進行についてはしっかりと組めばよいと思う。

質問：議案を全て議長団に通すことが問題だと言っているが、学内行事委員会も学園祭に関する意見は先に目を通し、その後に座長団として投票にも参加していたが、何が違うのか。

回答：結論から言うと、違う。議長団は学内行事委員会が提出する議案に対しても、各学類・専門学群が提出する議案に対しても同様に目を通すが、学内行事委員会は学園祭実行委員会から提出する議案ではなく、学内行事委員会から提出する議案である。

意見：議事進行役を監察役と同様に選出すると言っていたが、総務委員会の前年度構成員が専門委員として残るシステムを作り、総務委員会の専門委員から選出してもよいと思う。

質問：副学長決定を改訂する実現の可能性はどれくらいか。

回答：現時点では、決まっていることが少なすぎて実現可能性は無いに等しいが、これからより良い方法を確立できれば、実現できると思う。

#### 《議題①：2016年度議長団選挙》

総務委員会専門委員・落合が説明を行った。

現在の出席人数が51名であるので、これより議長団選挙を行う。

まず監察役の紹介をする。体育専門学群4年・山村と社会工学類3年・佐藤である。本

日は選挙管理を行ってもらう。

選挙の実施条件について、本日の出席者数は 51 名であるので選挙を行う。

本日は副議長一人のみを選出する。

総務委員会専門委員・落合が立候補者を募った。

生物資源学類 1 年・クレイグが副議長に立候補した。

生物資源学類 1 年・クレイグが立候補演説を行った。

私が立候補した理由は 2 点ある。

1 点目は、議長や副議長の言う「つながりの強化」に感銘を受け、私も一緒に行いたい、と強く思ったからである。

2 点目は、1 年生であるメリットを生かして、2 年生以上の人が慣れてしまい気付けない問題点に気付けると思ったからである。

「つながりの強化」が大切だと思ったのは、色々なところで「透明性」の大切さが言われているからだ。「透明性」とは、どこで何を行っているか、ということだと考えている。「つながりの強化」も言葉が違うだけで同じものだと感じた。つながりが無い場合、組織内の解決が難しい課題に直面したときに、他の組織の活動内容が分からないと、解決できずに、そのままになってしまうと思う。つながりがあり、他の組織の活動内容が分かれば、他の組織で解決策が見つかるかもしれないと思う。さらに、組織同士で協力して、問題の解決を図れると思う。

以上の理由により、副議長に立候補した。

〈質疑応答〉

質問：既に出選されている議長、副議長とともに仕事を円滑に進めていくという方針で動くという認識で合っているか。(生物学類 1 年・石川)

回答：そう言ってしまうえばそうだが、私もやりたいと考えていることである。

(生物資源学類 1 年・クレイグ)

質問：議長、副議長と同じ志を持って活動することだが、自分で他にやりたいことはあるのか。(生物学類 2 年・吉川)

回答：「つながりの強化」を通して、学生の自由をサポートしたいと考えている。学生が何かをしたいと思ったときにどうすれば良いのかを教えられるようになることはとても良いことだと思う。他にやりたいことに関しては、筑波大学の学生になったばかりで、筑波大学のこともよく分からない状態なので、まだ思いつかない。

(生物資源学類 1 年・クレイグ)

質問：現在、議長と副議長が選出されているが、議長と副議長それぞれの欠点は何だと思

うか。またそれらに対してどのようなサポートができるか。(副議長・福田)

回答：まだ二人のことをよく知らないので、断定的なことは言えないが、人それぞれ見方は違うので、二人が見えない部分で私が見えるところを補足していきたいと思っている。(生物資源学類 1 年・クレイグ)

質問：立候補演説で挙げた理由の 2 点目の「1 年生であるメリットを生かしたい」について、具体的に凝り固まった視点でなく、新しい視点を取り入れたいと言っていたが、その他に 1 年生であるというメリットはあるか。(議長・鈴見)

回答：入学してまだ日が浅いので、色々不便に思うことがあるが、2 年生以上になると、慣れてしまい、不便に思わないのではないかと思う。そのような点を意見として述べたいと思う。(生物資源学類 1 年・クレイグ)

質問：人文学類 2 年・神尾への質問である。昨年、生物資源学類 1 年・クレイグと同じ意図で立候補して、1 年生でありながら一年間副議長を勤めていたが、昨年度の経験からアドバイス等はあるか。(オブザーバー・物理学類 3 年・落合)

回答：私も昨年度の立候補演説で似たようなことを言った覚えがあるが、1 年生の視点で全代会経験者の視点に対して、別の視点を提供することは、方針として間違ったことではないと思う。しかし、それは厳しいところがある。新しい視点を提供する以前に、元々どのような視点が全代会の中にあるのか、ということ把握することが、大変である。なるべく積極的に自分から先輩に話を聞く機会を探すべきだと思う。自分の視点も凝り固まっていることがあるので、時々、振り返りながら行ってほしい。事務的なことに関しては、同じことの繰り返しの様で、臨機応変に対応しなくてはいけないことが度々出てくると思うので、その仕事の分配については議長団としっかり話し合っ決めてほしい。副議長・福田の質問で二人の欠点に対してどのようなサポートができるか、とあったが、それについて述べさせてもらおうと、副議長・福田は、自分では仕事を分配する方だと言っているが、一人で仕事を抱え込むタイプである。今年度は学内行事委員会の委員長も兼任するので、仕事を積み重ねないように気を配ってほしい。議長・鈴見は、モチベーションが高いので、新しいことを行うことを考えると。新しいことを考えることは大切だが、あまり突っ走らない様にブレーキをかけてあげることも大切だと思う。(人文学類 2 年・神尾)

質問：先ほど人文学類 2 年・神尾も言っていたが、副議長・福田は仕事をため込むので、それに気付いたときはどうするか。(生物学類 2 年・吉川)

回答：副議長・福田に仕事を他の人に振り分けたらどうかと提案するつもりである。

(生物資源学類 1 年・クレイグ)

意見：私が 2 年生になり一ヶ月の間経ったが、昨年と比べ全代会が変わった点がある。1 年生からすると普通だと思うことかもしれないが、2 年生の私からすると昨年からいろいろなことが変わった。良いところも悪いところもあるので、これから過去を知ら



ない1年生の視点で決めてほしい。(知識情報・図書館学類2年・平井)

意見：先ほどの仕事の割り振りについてだが、そこはしっかりと考えた上で割り振ろうと思う。また、議長の立場からも副議長のうちどちらかがため込んでいたり、逆に余裕があったりしたときは、それに対して対処していく。仕事をどちらか一方に割り振るのではなく、副議長二人と議長も含めて三人で行うことも考えている。(議長・鈴見)

意見：質疑応答なのに、自分の意見を述べているように感じるので、それは今やるべきことなのかと思う。また、議事進行についてこれから二分間意見が出なかった場合、速やかに投票に移ることを要求する。(社会学類1年・秋田)

総務委員会専門委員・落合が質問や意見を募ったが、現れなかったので投票に移った。

〈投票〉

議題①：2016年度議長団選挙 (副議長)

A (信任) : 48

B (不信任) : 1

C (保留) : 2

白票 : 0

以上

※採決時の座長団の人数は51名

上記の通り、議題「2016年度議長団選挙」において、生物資源学類1年・クレイグが2016年度副議長として選出された。

進行が議長・鈴見に代わった。

【委員会報告】

\*議長団

- ・ 先週の第二回本会議の後に、委員長連絡会を行った。内容は slack の#general にもあげているので、詳しくはそちらを見てほしい。
- ・ 先週の木曜日のランチミーティングで、支援室によって教室申請のフォーマットが微妙に違うことと、エリアによってチャイムの鳴る時間にずれが生じていることについて、問題点として学生生活支援室の先生方に伝えた。

\*総務委員会

- ・ 第三回本会議の準備をした。
- ・ 紙資料の削減のために、これからの会議資料は slack にあげるの、そちらをみることができる人はそちらを見てほしい。

- ・ ファイルの再利用のため、必要のない人は会議終了後、前にもってきてほしい。

#### \*学内行事委員会

- ・ 平成 28 年度学園祭前夜祭司会者候補に関する書類に赤入れを行った。
- ・ 学園祭に関する議題の承認を学内行事委員会に委任することについて、学生生活課及び平成 28 年度学園祭実行委員会と話し合いを行った。

#### \*教育環境委員会

- ・ 教員向けと生徒向けの manaba についてのアンケートと、冷房についてのアンケートを作成中である。教員向けについては、学生生活課と話を進めている。

#### \*生活環境委員会

- ・ 先週第一回ミーティングを行い、各班の詳しい説明と新入生の班希望をとった。

#### \*調査委員会

- ・ 昨日ミーティングを行い、今年度の方針を定め、現在来ている依頼について話し合いを行った。
- ・ 個人的に行ってくれている人もいるが、調査してほしいことがあれば、slack の調査委員会のチャンネル (#res) に送ってほしい。

#### \*広報委員会

- ・ 宿舎祭特別号を作成中である。来週には発行になる。
- ・ 広報委員会の Twitter アカウントの運用についてのガイドラインを作成中である。

#### 【諸連絡】

- ・ slack の招待メールを全員分送ったので、未加入の人は入ってほしい。

(情報メディア創成学類 2 年・村田)

質問：議題②についてクラス代表者会議で話し合っしてほしいとあったが、議事録はいつ出てくるのか。(工学システム学類 1 年・村手)

回答：議題②の議事録については明日の 12 時まではこちらで用意し、slack の#rep (現：#conference) というチャンネルにあげる。(議長・鈴見)

- ・ できる限り明確にしてから承認か、否認か判断してほしいので、もし議題②について分からない場合、全代会のメールアドレスに疑問点を送ってほしい。また、今回意見を言えなかったが、意見があるという場合も送ってほしい。(比較文化学類 2 年・福田)